

アロマセラピストの田中浩子さんは身内でも何でもなく…  
いや、できれば親縁でありたかったと思うほど上品で、  
立ち居振る舞いが美しい女性です。  
ゆったりとした口調で丁寧な言葉を紡ぎだす、  
そんな浩子さんとHappyになれる「香り」のお話。

Profile  
Holistic Harmony / アロマセラピスト 田中 浩子  
宮崎県出身。英国IFPA福岡校GCAにて国際ライセンス取得後、アロマエンライトメント認定プラクティショナーとティーチャーを取得。サロンの名前には、Holistic=総合的、多角的なアプローチが人々のお役に立ちますようにとの願いが込められている。好きなことは、バレエ、香りの瞑想、犬との会話。



「私ね、もともと香水はあまり好きじゃなかったんだけど、精油と出逢って『香り』の概念が変わったの」

今から15年前、近所の公民館で開催されたアロマ教室で『ラベンダー』の香りとお出逢った浩子さんは、一瞬で精油(エッセンシャルオイル)の世界に魅せられたそう。それからは月に一度の講座が楽しみで、新しい香りとお出逢うたび、それれがもたらす感情の変化や身体への影響とも真剣に向き合うようになったと語ります。中でも『テイトウリー』は、当時副鼻腔炎を患っていた浩子さんにとって、まさに魔法の精油でした。

「あの時は、本当に衝撃的だった！それまでは症状が悪化したら病院に行って薬をもらうしかなかったのよね。精油は鼻の下に塗るだけで症状が楽になるし、ずっと使用していたら予防にもなって、自然と体質改善したみたいなの」

精油で体質改善？驚くのはそればかりではなく、精油の理解をさらに深めていった浩子さんは、精油には女性ホルモンのバランスを整えたり、気分がひどく落ち込んでいたり、気を和らげたりするパワーがあることをご自身の経験をもつて実感されたと言います。精



油って、そんなにすごいのか？私の視線は、目の前に並ぶカラフルな小瓶たちに釘付けです。

「精油って植物から抽出したエキスでしょうか？自然界のエネルギーがそのまま凝縮されているから、生き物と同じなのよね」

だから浩子さんは、精油の一つひとつをまるで自分の友人を紹介するかのようになり、やさしく接しているんだ、と妙に納得。中には個性が強すぎあまり好まれぬ香りもあるけど、浩子さん曰く、感じ方はその人のコンディションによる部分が大きくて、受け付けない香りからその時の体調や無意識にふたをしている感情を知るきっかけになるのだとか。

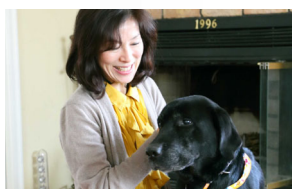
「サロンを開業する時ね、私の背中を押してくれたのも精油だったの。それまでは初めの一歩がなかなか踏み出せなくて…。だけど、恐怖や不安って自分の中で勝手に作り上げているものなのよね。地に足をつけて、自分の足で踏み出しなさいっていうメッセージを持つ精油を取り入れたら、私の中で何か動き始めたの。香りって目に見えないけど、嗅覚を通じて脳に直接働きかける

# 香りって、 時として言葉より響くのよ

から、時として言葉以上のメッセージを伝えてくれるのよね」

確かに、香りの記憶って、幼い頃の祖母さんの家のタオルの匂いとか、初めてもらったエアメールの匂いとか、ふとした瞬間に忘れていた感情を呼び覚ますことがある。浩子さんが精油に魅かれた理由が、何となく分かったような気がしました。最後に、浩子さんが一番Happyになる香りを尋ねてみると、

「二つしかだめ？…強いて言うなら『フランキンセンス』かしら。古代エジプト時代から存在していて聖書にも載っている精油なの。やさしくて包み込むような香りだから、自分を取り戻したい時にはいつも使っているわ」



でも最近は一歩踏み出したことで回転し始めた大きな車輪が止まらなくなっているように感じるほど、浩子さんの勢いは輝きを放っています。「あら、分かる？そのうち、自分にブレーキをかける精油が必要になるかも。うふふっ」そう言って笑う浩子さんは、一輪の花のようにやさしく癒してくれるのです。